

日本共産党の藤木くにあきでございます。

私は、1．庄原保育所の建替えについて、2．庄原保育所などの運営を民営化にしようとしていることについて、3．薪ストーブ購入への助成金について市長に、質問いたします。

質問の第一は、庄原保育所の建替えについてです。

市長は、庄原保育所が耐震診断により、強い地震に耐えない、ことが明らかになったとして、2010年度に用地を取得し、2011年度に実施設計と造成工事をおこない、2012年度に建替えるとしておられます。私も、庄原保育所の建替えには大賛成です。

しかし、物事には、関係者の理解できる手順というものがが必要です。

今回の提案の経過を見ると、結果として、関係者への説明と協議が、庄原赤十字病院の西館の新築が、市民会館の駐車場におこなわれることが決まった後からになり、市民会館の駐車場がなくなるので、その代替地に、現在の庄原保育所の敷地を利用する、そのために、庄原保育所を他の場所に移転新築する、庄原赤十字病院の建替えが2010年度から始まるので、関係者への事前の協議もないまま、市長が庄原保育所の移転先を内定し、関係者に説明する、とい

うものになっています。

私は、まず、庄原保育所の新築移転を先行して検討し、関係者とよく協議したうえで、移転先を選考し、その後に、市民会館の現在の駐車場の敷地を庄原赤十字病院に提供する話をすすめる、というのが、本来の手順だと考えます。

たとえ良いことでも、誰もが納得できる手順でなければ、ならないことを、まず、指摘するものです。

そのうえで、質問いたします。

市長は、庄原保育所の建替え先は、山の崎市営住宅の南側の、国道 432 号線の、さらに南側にある、山の崎市営住宅を建替える用地だとして、庄原市土地開発公社に先行取得させ、半分程度、埋め立て造成してある、三日市町の 7,200 m²の土地を考えておられるようですが、国道 432 号線から南側に入る、市道上原戸郷線の幅員は狭く、歩道もない状況にあります。そこでお尋ねいたします。

毎日の通園にかなりの車が入り出すことになりませんが、交差点の信号機、市道の車道、歩道の整備をどう考えておられるのでしょうか。まず、明確な答弁を求めるものです。

以後の質問については、質問席からおこなわせていただきます。

保育児の定員は、年齢毎にそれぞれ何名程度を考慮しておられるのか、具体的に、説明を求めます。

私は、本来、保育所は、子どもたちにも、環境にもやさしい、木造の平屋建てにすべきだと考えていますが、仮に、一部2階建てで、基本骨格を、純鉄骨造りにするとした場合でも、地域木材を早めに確保し、屋根、外壁、内壁、天井、床などは木造とし、また、窓も、断熱性の高い網戸付のペアガラスとし、完全冷暖房にし、さらに3歳未満児の保育室は床暖房もおこない、子どもたちにも、環境にもやさしい保育所にすべきだと考えますがどうでしょうか。市長の基本的な考え方をお伺いいたします。

仮に、一部2階建てにした場合には、災害時に一番危険な3歳未満児の保育室は、現在の庄原保育所のような2階ではなく、遊びやすく、避難もしやすい1階に設けるべきだと考えますがどうでしょうか。明確な答弁を求めます。

給食は、命の源であり、当然のことながら、手づくりの自園調理方式とし、地元産米によるご飯も含めた完全給食にすべきだと考えますがどうでしょうか。明確な答弁を求めます。

質問の第二は、庄原保育所などの運営を民営化にしようとしていることについてです。

市長は、当面、2011年度から総領保育所、2013年度から庄原保育所、下高保育所の運営を民営化しようとしておられますが、その真の狙いは、保育士、調理士を全て民間の職員に入れ替え、人件費を安く抑え、それで浮く予算の一部で、保育士、看護師、調理士を増員し、保護者のみなさんの切実な願いである「3歳未満児保育の充実、延長保育の充実などをおこなう」のだから賛成をと、保護者のみなさんの願いを逆手にとり、民営化に同意を求める、というものとなっています。

しかし、将来の庄原市を担う子どもたちの基礎を育む保育は、自治体本来の仕事であり、それに必要な予算の増額は、当然のことであり、保育士などの給料を大幅に引き下げ、そこにしわ寄せすべきものでは、絶対にはないと考えます。

たとえ、公営の保育所であっても、計画的な人事で、優秀な、経験の長い保育士、若い保育士、調理士をまんべんなく確保し、看護師も配置し、延長保育に、多少の変則勤務、パート保育士などを導入するなど工夫していけば、そんなに人件費を増額することなく、3歳未満児保育の充実、延長保育の充実などを実現することは可能であり、その方がより保育の内容が充実し、雇用も安定するのではないのでしょうか。市長の明確な答弁を求めます。

仮に庄原保育所の運営を民営化するとした場合で考えてみても、30名を超える、優秀

な、経験年数が長い保育士、若い保育士、調理士を、単年度の採用で、まんべんなく確保することは、事実上、不可能ではないでしょうか。しかも、お互いが初顔合わせというのでは、保育の充実とはとてもいえないのではないのでしょうか。明確な答弁を求めます。

保育所運営の民営化先は、3つの保育所について、それぞれ、どこを想定しているのでしょうか。

指定管理による、保育所運営の民営化の基本は、同じ会社や社会福祉法人などが責任をもって運営できるのは最長でも5年間までの指定管理契約の間だけであり、その先の保障はなにもないのではないのでしょうか。

これで、安定して、充実した保育をおこなうことが、はたして、できるのでしょうか。明確な答弁を求めます。

長い年月をかけて、庄原市の責任で、優秀な、経験年数の長い保育士、若い保育士、調理士を育て、庄原市の将来を担う子どもたちの基礎を育んできたものを、合併して、これからという時点で、保育士などの採用をいっさいとりやめ、多くの保育所で、それを放棄しようとしていることは、保育の充実に逆行するものであり、断じて、許されるものではないのでしょうか。重ねて明確な答弁を求めます。

質問の第三は、薪ストーブ購入への助成金についてです。

地球温暖化が進むなか、環境にやさしい木材燃料が見直されてきています。私は、農村部の多い庄原市では、ペレットストーブだけでなく、ペレットを作る手間のまったく不要な、しかも生木の丸太でもよく燃える、2重燃焼する薪ストーブなどの購入にも、当然に、助成金を出されるべきだと考えますがどうでしょうか。隣の三次市では、すでに、ペレットストーブに加え、薪ストーブの購入に、3分の1以内、上限10万円の助成金が出されていますが、市長の明確な答弁を求めます。